

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400021		
法人名	有限会社 ユートピア・アットホーム旭川		
事業所名	グループホーム 金さん銀さん		
所在地	深川市音江町1丁目3番13号		
自己評価作成日	平成23年3月5日	評価結果市町村受理日	平成23年6月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0197400021&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0197400021&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月1回両ユニットの合同交流会を行っており、利用者さんの希望も聞きながらメニューを決めている。その月によって食事やお菓子を利用者さんと職員と一緒に作り、準備をしている。ご家族や同施設内の1階の有料老人ホームの入居さんにも参加していただき、交流を深めている。季節の物や普段の食事にはないメニューで皆さん楽しませている。</li> <li>日常生活動作の支援を工夫し、できることを継続して行える様に関わりを持っている。</li> <li>職員それぞれの長所を日々の業務の中で活かす事ができている。</li> <li>自立支援を意識してアクティビティの工夫をしている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>見晴らしの良い高台に建つホームは、1階に有料老人ホームがある複合施設の2階にあります。窓からは深川市街が一望でき、夜景や花火大会も居間から眺めることができます。ホームの近くには学校や青年の家などがあり、日常的な交流とともに、非常時に備え関係機関と協議し、運営推進会議などを通じて、連携体制も構築しています。利用者が安心して生活を楽めるように職員が検討し、1階の有料老人ホームやユニット合同での行事を開催して交流を図ったり、近隣にも積極的に出かけ、社会的な繋がりと利用者の楽しみごとの支援に力を入れています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員は業務中は介護理念を常に携帯している。毎朝の朝礼で復唱し、毎日のケアに繋げている。	介護理念は、会議等で事例を交え、日頃のケアに活かすための実践的な話し合いを行っています。運営理念には、地域との関係性も記載され、幅広い取り組みを行っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	関わりのある機関より町内レク、保育園ボランティア、運動会・学芸会見学などへの招待を受けているが、日常的な交流までには至っていないのが現状。	保育園や小学校とは、行事の際の行き来があります。また、市役所などにホーム便りを置いて頂き、地域への情報発信にも取り組んでいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の草むしりや清掃等に利用者と一緒に参加している。また、広報誌を年4回発行し、事業所及び認知症への地域理解に努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に出席した各代表者より、活動報告内容や会議のあり方、要望など様々な意見交換やアドバイスを受け、ケアや事業所全体の質向上に努めている。	運営推進会議は定期的実施し、多方面から様々な助言を受けています。ホームができることと、外部に協力して欲しいことを明確にし、協力関係を構築しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所を運営するにあたって法人本部・事業所を含めて相談は要所で行っているが、日常的な協力関係構築までには至っていない。	地域ケア会議や個別に市の介護保険課に相談に行き、解決策を協議しています。非常時の際の検討も含め、協働して利用者の生活を守るよう、働きかけを続けています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的ではないものの現状の確認と身体拘束が及ぼす弊害や危険性を職員間で勉強している。実際に日中は玄関に鍵を掛けることはしていない。	事故対策委員会と身体拘束委員会を統合し、リスク管理と拘束の弊害について、一体的に検討できる仕組みを作っています。また、ユニット毎の入口には鍵を掛けていません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会は一部の職員に留まっている状況。身体拘束廃止と併せて、委員会の中で学ぶ機会を持っているが、法の細部に渡ってはできていない。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修については一部の職員に留まっている状況で、該当する利用者がいない為、事業所内での研修にまでは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際しての重要事項の説明を十分に行っている。また、契約締結後も疑問点等については随時説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ利用者・家族の代表に参加していただき、要望や意見等を十分ではないが運営に反映させている。	家族の来訪時には、利用者の生活の様子を伝え、意向を引き出しています。また、ホームだよりや毎月の家族通信に、利用者一人ひとりの様子を記載し送付しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は介護職員の意見や提案をミーティングや現場の中で随時聞き取る努力をしている。また、集約した意見等を管理者が法人本部へ伝え、運営に反映できるように努めている。	職員からの意見等は、会議の中で話しやすい雰囲気を作り、管理者が個別に聞く機会を作っています。行事や勤務の希望を聞き、夜勤専門職員を配置するなどしています。	外部研修の参加などは、職員の自発性に任されている部分があります。職員の意欲や希望を加味しながら、職員が学びたい内容を後押しできるような仕組みについて、管理者と運営法人が共に取り組むことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士で声を掛けて助け合い、チームで利用者を支えていけるよう努めている。また、健康にも配慮し、お互いが早く帰れるように助け合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は研修を受ける事の大切さを理解しており、職員への研修情報を提供し参加に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との相互交流実現には至っていないが、管理者同士では実現に向けての話し合いの機会があった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族から在宅での生活状況や個人の性格などの情報を集め、その人に合った対応ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族へ暮らしぶり等の情報を逐一提供し、来訪時にも聞き取りを行なっている。情報共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報をもとに本人のできる部分と出来ない部分の確認をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活のあらゆる場面で、人生の先輩としての知識や経験を引き出せる関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一部の家族に留まっているのが現状。本人の嗜好品や衣類等の購入などに対して全ての家族から理解を得られている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容室の利用継続や町内の知人へ電話をするなどして、関係が途切れないように努めている。	図書館へ定期的に出かける等、趣味の継続に配慮しています。利用者が自宅を訪問する際には送迎したり、電話を掛けたり等、利用者の希望に応じて行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や性格などを把握した上で、隣同士に座ってもらったり、職員が必要に応じて間に介入して交流がスムーズにいくよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了しても、家族が営む農園に行ったり、広報誌を配布に周ったりしている。相談やフォローには至っていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初期段階やモニタリング時など意向を引き出せるような関わりをすると共に、ミーティングなどで検討している。	ケース記録に記載し、毎月、家族通信の中に、利用者の言葉で記載する等、意向を把握し職員と家族が共有しながら、利用者を支えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自の書式を使用して、入居前情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録をもとに健康状態や心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで検討事項などを話し合っているが、計画書への反映には至っていない。家族の意向が聞き取りにくい家族もいる。	利用者の担当職員やケアに関わる職員が、会議で検討し、3ヵ月毎に介護計画を作成しています。毎月の会議で利用者の状況を把握し、必要に応じ計画を変更しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の連動性や充実度は十分ではないが、毎月のミーティングで各担当者(夜勤含む)より情報提供してもらい、見直し・実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族宅への外出や外泊、学校行事の見学など柔軟な支援ができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	銀行・スーパー・馴染みの商店など地域資源を活用し、利用者の力を発揮できる場面作りや豊かな暮らしを送れるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にかかりつけの病院を確認し受診に繋げている。また、心身状況に応じてかかりつけ病院以外の病院も家族と相談の上検討している。	受診時に職員が同行する場合は報告書を作成し、他の職員も内容を把握し、家族への報告を行っています。1階の医務室や、看護師資格のある職員とも連携しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員としては配置していないが、資格を有する職員がいるため、医療面での相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来る限り見舞いに行き、孤立感がないように努めている。また、入院の際には疾患やホームでの暮らしぶりを医療機関に情報提供している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要性は理解しているが、看取りについての理解や知識、準備が整っていない今後課題となっている。	終末期が視野に入った場合には、一人ひとりに合わせた方針や指針を作成し、家族と十分に話し合っています。しかし、ホーム全体としての指針の作成には至っていません。	早い段階から家族や利用者の意向を受け止め支援していくためには、ホームの方針が必要です。また職員の知識や技術の向上とともに、医療などの協力関係も不可欠となります。まずは関係者が共有できるよう、指針作成を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部の職員だけにとどまっている。内外の研修の開催・参加などが必要と考える。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自力避難が困難な人に毎回参加していただいている。特定施設と協力して、第一避難場所確保等の地域連携に繋がっている。	年2回の夜間想定避難訓練を実施しています。訓練や他の事例から、非常時の課題を洗い出し、地域や行政にも積極的に協力を求めています。	今後も関係機関との連携を図り、いざという時の分担を明確にするとともに、非常時に必要なものを備蓄したり、避難場所をあらかじめ家族に知らせておくなどの備えを進めるよう期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩ということを忘れず、場面によって話し方や言葉を変えて、コミュニケーションを円滑にしている。	介護をする側、される側という一方的な関係になっていないか、常に気を配っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは生の声を聞き、表出できない人へは嗜好も含めた選択肢を提供し、決め付けや思い込みでは判断しないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理のない範囲で主体的に生活できるような方向で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る人は自分で選んでいただき、表出できない場合は、選びやすいような配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備→食事→下膳の流れの中で、常に利用者とともに持つる力を引き出せるような関わりを実施している。	利用者が好きな物、食べたい物の希望を反映した献立を提供しています。要望に応じて、深川市内や旭川市内での外食の機会を作っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重増加や水分制限がある利用者があるため、常に職員間で気に掛け、対応の見直しに繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほぼ全員行なっているが、個別に明確にはなっていない。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力歩行が困難な人でも夜間において、ポータブルトイレを使用してもらい排泄の自立に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘状況の確認と把握を意識して、腹部のマッサージや毎日の運動、調理など出来る力を利用して便秘予防に活かしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望の時間には対応出来ないのが現実。同性職員希望者には随時対応している。	電気温水器の貯湯量の関係から、入浴時間が決まっており、利用者が好きな時に入浴することは困難ですが、週2回以上となるように工夫し、入浴支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝時間については設定していない。室内の温湿度は1日を通して快適な室内環境の確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の用法等の理解は一部の職員に留まっている。薬が変更になった時は、効能・副作用などを報告書に明記して周知に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で役割や楽しみを持って生活を送れるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一部の利用者については希望の表出ができる為随時対応している。また、天気や職員配置など考慮して、買い物・ドライブなどに誘うことができている。	散歩や買い物など、日常的な希望の他に、花見や屋外での焼肉など、季節の行事を行っています。また旭川の動物園など、利用者の希望に合わせて企画し、みんなで楽しむ機会を大切にしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解は充分ではないが、買い物・銀行・その他金銭を使う場面作りに努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から郵便物が届いたり、通院結果の報告の際などに電話で話ができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット全体ではゆったりとした空気が流れている。季節感への配慮は玄関など一部分に留まっている。	居間からの街を一望できる眺望は、四季を通じて利用者の目を楽しませています。居間の窓には、カーテンの取り付けが予定されており、調光や室内の保温にも活用されることになっています。	湯が使える場所が限られていたり、量が少ないなど、冬期間は、職員の工夫だけでは補えない部分もあります。また、脱衣所の暖房が十分でなく、高齢者には身体的な負担が予想されます。眺望や開放感はありますが、脱衣所の窓が大きく、外部からの視線を遮る物がないため、羞恥心への配慮を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者は居室で話しをすることが多い。居間付近に個室はあるが、利用する頻度は少ない。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前後の暮らしぶりを把握し、利用者本人が必要なものを随時確認し、住環境を整えている。家族へは使い慣れた物を持ち込む意味を十分に説明し実施に繋げている。	居室には洗面台が設置されています。利用者は使い慣れたものを持ち込み、思い思いに整えています。職員が安全に配慮し、快適に過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・風呂・トイレ等の標記を大きく分かりやすいようにしている。		